

第3回 八潮市で発生した道路陥没事故に関する原因究明委員会 議事要旨

日時：令和7年9月4日（木）16：00～17：30

場所：芝パークビルB館 AP 浜松町 地下1F RoomA

出席者：

藤野 陽三 委員長

二羽 淳一郎 副委員長

砂金 伸治 委員

加藤 裕之 委員

桑野 二郎 委員

桑野 玲子 委員

真下 英人 委員

宮武 裕昭 委員

森田 弘昭 委員

配布資料：中間取りまとめ（案）

1. 藤野陽三委員長挨拶

本日の委員会を始めるにあたり、改めて、今回の道路陥没事故において、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご家族、ご関係の皆様には、心よりお悔やみ申し上げます。また、崩落や硫化水素などの厳しい状況の中で、救出、あるいは周辺地盤の安定化や下水道機能の維持に当たられた各位に敬意を表します。さらに、思いがけないご不便や環境の悪化に遭われている周辺住民の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

さて、本委員会は、今回の道路陥没事故が発生した原因について、客観性と公平性を持って検証することを目的に設置され、3月に第1回委員会を開催いたしました。第1回委員会では、事故の概要や現場状況について県や消防から聞き取ったうえで、原因究明を適切に進めるための論点や収集すべき情報を整理しました。その後、文献調査や専門家への意見聴取などによる情報収集を進めるとともに、現場調査による下水道管の部材の劣化状況なども確認し、第2回委員会では、下水道管が損傷したメカニズムとして様々な可能性を推定し、それらを裏付けるために今後どのような調査や分析を進めていくべきかなどについて議論しました。その後、情報の集積や調査・実験が進むのに伴い、空洞生成・陥没発生 of 要因などについて適宜意見交換を行ってきました。

これまで、8回の現地調査、12回の参加可能な委員による関係者からの意見聴取及び意見交換を行ってきました。これらから得られた情報・知見や実験結果をもとに、第3回となる今回は、道路陥没が起きたプロセスについて想定されるシナリオを整理するとともに、道路陥没を引き起こした要因や背景についても、整理・検討を進めたいと思います。委員の皆様には、それぞれのご専門の立場から活発にご議論いただき、本日の委員会が実りあるものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2. 議題

(1) 中間とりまとめ（案）について

空洞模型実験について映像を流しながら事務局より説明し、委員より実験内容及び実験結果の確認が行われた。

これまでに調査・収集した資料などに基づき、本委員会の中間取りまとめ（案）の概要を「1. 事故の概要」、「2. 周辺状況」、「3. 下水道の概要」、「4. 調査、試験結果」、「5. 原因究明の概要」、「6 今後の予定」、「7 委員会活動の概要」にて取りまとめた結果について事務局より説明し、委員より内容の確認が行われた。

その結果、一部の表現を修正することを前提に、中間取りまとめ（案）の内容が了承された。

＜主な修正箇所＞

- 陥没前の処理場に漂着した累積土砂量と当初の推定陥没体積との関係の試算について、初期の陥没穴の体積は土量のバランスを考えるための最低流入土砂量を推定するための仮定であることを追記すること。
- シナリオ 2 を裏付ける要因について、ボルトボックスの説明が不足しているため追記すること。
- 小規模な空隙として考えられる一次覆工（RC セグメント本体）の空隙について、継手付近以外の箇所に空隙が生じた可能性もあることを示すこと。

(2) 今後の予定について

最終取りまとめに向かっては、今回の事故の原因から考えられる留意点などについて技術的に言及していくことが確認された。

具体的には、継続中の残存物の回収や試験等の結果をもとにしたさらなる検証を行うとともに、同様の事故発生を防止するための留意点として、事象の検知・検出に関する視点、点検・調査に関する視点、補修・補強に関する視点から検討する予定とされた。なお、技術的な言及は、今回の事故特有の事象だけに着目するのではなく、幅広く検討することが確認された。

— 以上 —